

輸血情報

【輸血によるマラリアの感染について】

「第36回日本熱帯医学会総会（平成6年12月1日～2日、鹿児島）」で、濃厚血小板輸血により感染したと考えられるマラリア感染の症例が報告されました。

●輸血によるマラリア感染報告例

日本における輸血マラリア

——血小板輸血により感染したと考えられる熱帯熱マラリア1症例を中心に——

狩野 繁之、鈴木 守

（群馬大学医学部寄生虫学教室）

日本熱帯医学会雑誌、Vol.22, No.4, p.193-198, 1994.より一部改編

患者

70歳

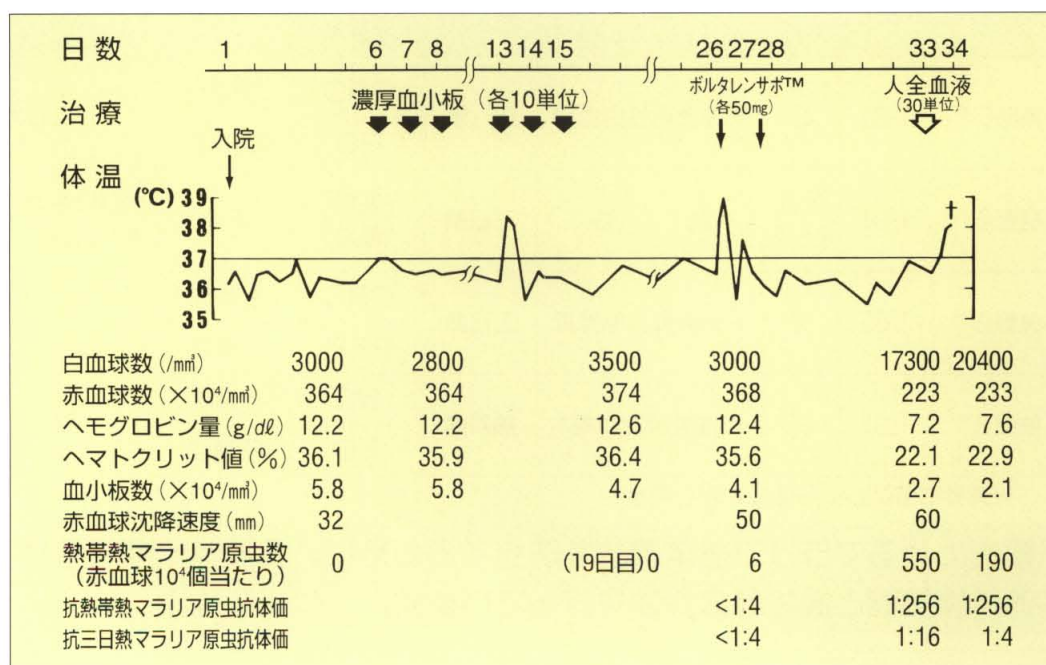
日本人女性

海外渡航歴なし

麻薬、覚醒剤等の常用歴なし

経過

慢性的な血小板減少症が認められたため、血小板製剤を計60単位輸血した。輸血開始21日目に突然の悪寒戦慄、発汗を伴う39°Cの発熱を示したが、ボルタレンサボTM50mgを投与し、一旦解熱した。しかしその後、輸血開始29日目に発熱が再度出現し、顔面、胸部、腹部黄疸が著しく現れ、意識消失に至り、徐々に血圧、呼吸数、脈拍数が低下し、永眠した。



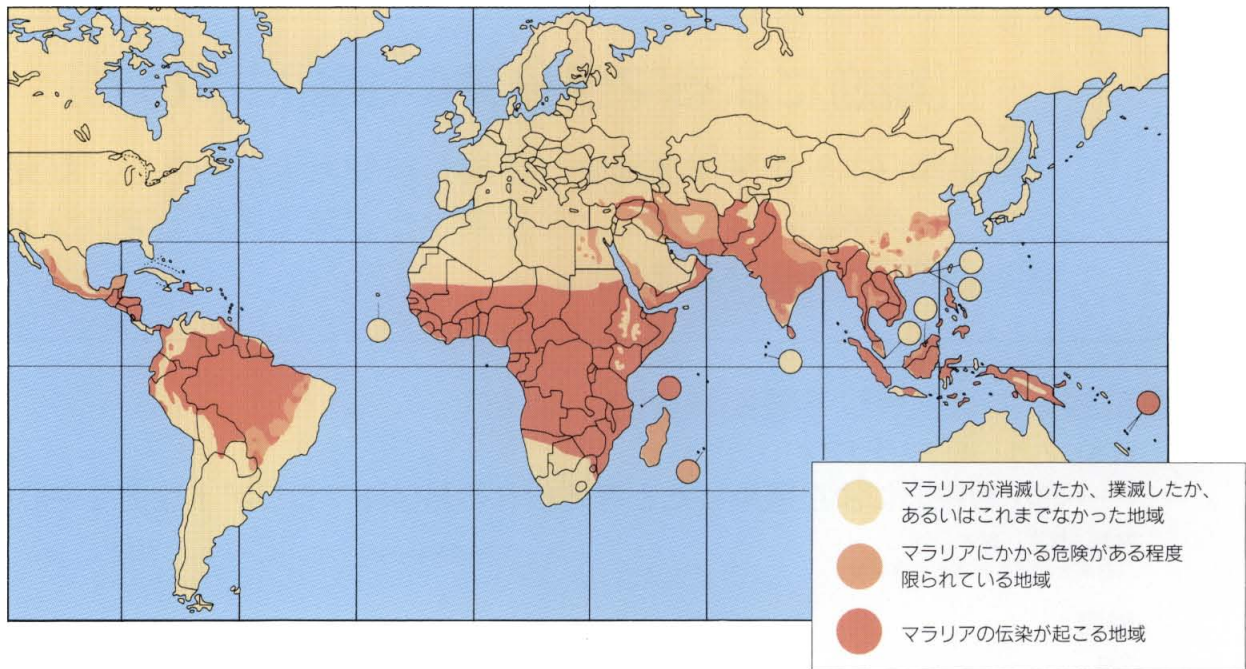
輸血前の患者血液からマラリア原虫が検出されていないことから、この原虫が寄生した赤血球が混入した濃厚血小板の輸血が原因となった可能性があります。

本例は、濃厚血小板のみの輸血の感染で起きたと考えられるマラリア感染の稀な例です。

※マラリアとは

熱帯の流行地でハマダラカに刺されることにより感染し、発病すると悪寒戦慄と共に40°Cの高熱を出し、脾臓がはれ貧血を起こします。三日熱マラリア (*Plasmodium vivax*)、四日熱マラリア (*Plasmodium malariae*)、熱帯熱マラリア (*Plasmodium falciparum*)、卵形マラリア (*Plasmodium ovale*) の4種類があり、発熱発作は1～2日おきに繰り返して起こりますが、悪性熱帯熱マラリアの場合は発熱期間が不規則で、1週間位で死亡することがあります。感染経路は、ハマダラカの他に輸血や注射器による感染が知られています¹⁾。

●マラリアの世界分布地図²⁾



●日本における最近の輸血によるマラリア感染報告例

報告者	発症年	患者年齢	疾患名	診断	使用血液製剤	輸血量	治療	転帰
原野ら ³⁾	1983	45	急性骨髄性白血病	卵形	CRC	22単位	クロロキン	回復
					PC	335単位		
祖堅ら ⁴⁾	1984	生後6ヵ月	黄疸	三日熱	(交換輸血)	不明	クロロキン、プリマキン合剤、キニーネ	回復
矢野ら ⁵⁾	1985	60	右大腿骨頸部骨折	三日熱	CRC	5単位	キニーネ、スルファドキシム・ピリメタミン(ファンシダール)	回復
					FFP	4単位		
佐藤ら ⁶⁾	1991	47	出血性デング病*	熱帯熱	WB	500ml	SP合剤	回復
					PC	26単位		

*海外で感染し、帰国してから発症

輸血によるマラリア感染事故を防止するために、日本赤十字社では、供血者の海外渡航歴と居住歴の問診を行っています。

■参考文献

- 1) 感染症研究会, 編; IV. 寄生虫病, 世界の感染症, 菜根出版, 1986, pp. 155-160.
- 2) WHO. World malaria situation in 1992-Part II. Weekly epidemiological record. 69, 317-321, 1994.
- 3) 原野 浩, 他; 輸血により感染したと思われる卵形Malariaの1例. 感染症学雑誌, 58, 1427-1428, 1984.
- 4) 祖堅 尚, 他; 交換輸血後に発症した新生児マラリアの1例. 感染症学雑誌, 58, 455, 1984.
- 5) 矢野 健一, 他; 輸血による三日熱マラリアの1例. 日本熱帯医学会雑誌, 13, 301-306, 1985.
- 6) 佐藤 純一, 他; 東南アジアで輸血を受け, 熱帯熱マラリアと非A非B肝炎を発症した1例. 感染症学雑誌, 65, 650-651, 1991.

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150 東京都渋谷区広尾 4-1-31

TEL: 03-5485-6607 FAX: 03-5485-7620

■お問い合わせ